

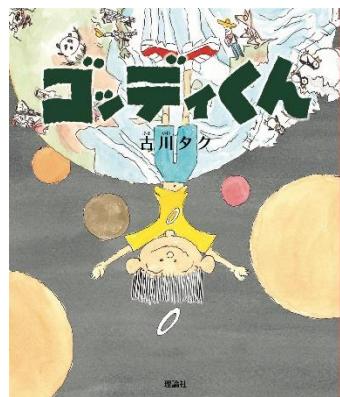
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

低学年向け 2025年 冬号



発行：ときつちょうりつときつとしょかん



「ゴッディくん」
古川タク//作（理論社）

神様の子どものゴッディくんは、いたずら好き。ある日、散歩に行って青い星を持ち帰った。それは、なんと、地球！ゴッディくんは、地球で遊び始めた。つぶしたり、さいころの形にしてころがしたり、真ん中に穴をあけたり。なにせ、神様の子どもだから、なんでもできる。ゴッディくんの豪快すぎるいたずらで、地球はおおさわぎ！

家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく（家読）」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



Illustrator ATSUOKO



「ふしぎなはごろも」

蔡 奉//作 絵 石田 稔//訳（徳間書店）

むかしむかしのおはなし。正直ではたらきもののアツオワンは、あまりにも貧しくて、結婚もできない。そこで、きれいな女の人の絵を描いてもらい、毎日その絵に話しかけていた。ある日、畑をたがやしながら家の方を見ると、すいじのけむりがゆらゆらとたちのぼっていた。あわてて家に帰ってみると、かまどではまんじゅうがゆげをたてていた。これはいったいどういうことだ？



「ゆきのひのだんまりうさぎ」
安房直子//作 ひがしちから//絵
(偕成社)

はたけのなかのちいさな家にたった一人ですんでいるだんまりうさぎ。雪が降って、ともだちのおしゃべりうさぎと話したくなりますが、電話のベルはなりません。でも、家の外から声がして...。性格は違うけど仲良しな、だんまりうさぎとおしゃべりうさぎの冬のおはなしです。この本は他にも春・夏・秋のおはなしもあるので、ぜひ読んでみてね。



「アーノルド・ローベルものがたり がまくんとかえるくんとぼく」

エミー キャスナー//作 長友 恵子//訳
(文化学園文化出版局)

教科書にてくるがまくんとかえるくんのおはなし、「ふたりはいつも」の作者、アーノルド・ローベルの伝記。アーノルドは人の話によく耳をかたむけ、よく本を読む少年でした。図書館に行っては、2週間分の本を借りて帰りました。

アーノルドは、おはなしを作るのも得意でした。いつもさらさらとお話を書きました。それで、たちまち人気者…になるはずでした。



「ぼくのすきなおじさん」
長新太//さく（絵本塾出版）

ちょっと見るとふつうのおじさんなんだけど、ちょっとちがう。おじさんは車でも、月でも、なんでも頭で「ドーン」とふっとばす。おじさんの頭はとんでもなくかたいのだ。お医者さんも石屋さんもびっくり。大きな大きなダイヤモンドもオバケの城も「ドドドーン」とふっとばした。するとオバケは、おじさんに石を投げた。それで、おじさんはどうしたと思う？…読んでみてのおたのしみ。



「巨大空港」
鎌田歩//さく（福音館書店）

ひとのものとおくいどうべんり人や物を遠くに移動させるのに便利な飛行機は私たちの生活に欠かせません。でも、飛行機をどのように安全に動かしているか知っていますか？答えは、空港にあります。空港では、私たちに見えないところで、さまざまな人たちがさまざまな仕事をしているのです！この本を読んで空港の裏側をのぞいてみましょう！